

「キリストによる平和」

(ローマ5:1-11)

一、こうして神との平和を

1節をご覧ください。こうして、私たちは信仰によって義と認められたので、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。とあります。1節はこうしてとという接続詞から始まっています。すなわち、前の節につながっているわけです。特に24節の後半につながっています。すなわち、私たちの主イエスを死者の中からよみがえらせた方を信じる私たちも、義と認められるのです。と。信仰によって義と認められるとは、信じようとする側が、一所懸命に信じて獲得するという性格のものではなく、神がなさったわざを、そのまま信じることです。それが信仰であり、アブラハムが神を信じたという「型」と同じであると、語られています。

神との間に平和を持っているというメッセージは、すごいことです。と言いますのは、私共に啓示された神、すなわち御自身をあらわされた神は、創世記1・1はじめに神が天と地を創造された。と。という神であり、ヨハネ1・1、3初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。

この方は、初めに神とともにおられた。すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかった。と。いう神だからです。また、父・子・聖霊として御自身を啓示された神です。その神と平和を持っているのです。さらには、恐れ敬いつつ、「アバ、父よ」と呼びかけることができるのです。

二、神の恵みによって

2節をご覧ください。このキリストによって私たちは、信仰によって、今立っているこの恵みに導き入れられました。そして、神の栄光にあずかる望みを喜んでいきます。とあります。喜んでいきます。と訳出したのは、口語訳と新改訳です。フランシスコ会訳と新共同訳、そして聖書協会共同訳は、**誇りにして**いきます。二つの訳を併せて読みますと、より意味が見えてまいります。私たちは、神の恵みによって、神との平和に入れられたことを喜び、また誇りにしていきます。神と、すなわち父・子・聖霊なる神と平和を保っている者は、だれも歓迎しないことでも喜び、また誇りとすることが、3節で語られています。それだけではなく、苦難さえも喜んでいきます。ここに書かれている喜んでいきますも、フランシスコ会訳と新共同訳、そして聖書協会共同訳は、**誇りにして**いきます。誇り

とします。誇りとしていきます。と訳出しています。ですから、両方の意味で受けとめたらよろしいかと思えます。私としては、**誇りとして**いきます。がしっくり来ますが……。キリストを信じていることによって苦難がやって来るなら、それは私共にとって「誇り」です。

さらに、3節後半より4節を見てまいります。それは、苦難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと、私たちは知っているからです。とあります。キリストを信じていることのゆえに、苦難がやって来ても、忍耐、練られた品性、希望が生み出されます。しかも5節にこの希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。とあります。どうしてそうなるのでしょうか。キリストの贖いのわざにより、それを信じる私たちが、神との間に平和を得ているからです。

三、罪人を救う神

6節を見てまいります。実にキリストは、私たちがまだ弱かったころ、定められた時に、不敬虔な者たちのために死んでくださいました。とあります。この聖句より、キリストが罪人のために死なれたのは**定められた時**であったことを知ります。主が十字架にか

られた時、そのことを意識していたのは、主イエス以外、だれもいませんでした。事が起こった後に、復活されたキリストが聖書のことばを聖霊によって解き明かしたことによって、明らかにされたことです。そういうわけで、教会が信じる主イエス・キリストによる救いの知らせの出どころは神御自身です。

6節に戻りますが、キリストは**不敬虔な者たちのために死んでくださいました**。不敬虔な者たちとは、だれでしょうか。神が造られた人(アダム)の、本来のあるべき姿から離れ、あるいは全く墮落した人の姿です。すなわち「罪人の」の最たる姿です。そういう「不敬虔な者たち」、すなわち「罪人たち」のためにキリストが死なれたと、パウロは語ります。私たちは心のどこかで、「あの人はひどい人間だから、救われなくてもいい」と思っています。それは、半分当たっていて、半分当たっていないことでありましょう。と言いますのは、善良な人が、救われるか否かが分からないのと同じです。世の中には、信仰者以上にすばらしい方がごまんといます。ですが、救われるか否かは分からないのです。そういう方々の場合、さばくのは私たちではなく、神です。いずれにしても、キリストが不敬虔な者たちのために死んでくださったというのには、強烈なメッセージです。7節、8節で語られているようにです。5・7・8